

お泊まり会の夜、呼びかけに応え勢いよく燃える松明を片手に登場した 火の神さまは、子どもたちに向かって話しました。 およそ こんな風に ……

地球には おひさまに 照らされ 明るく輝く 朝と 昼の時間と、 静かであつた 暗い夜の時間とがある。 いのちたちは それぞれ、 明るい朝 昼の時間と 暗い夜の時間 から 力を与えられ、 ゆたかに 生きる。

むそうようちえんの青バッチが 過です お泊まり会は 今、 「夜」を迎えた。

この場を 明るく照らすための 火を、 天上より届ける。

子どもたちは 静寂に包まれた キャンプファイヤーの 始まるの時間、 自分たち自身も 静けさになって 耳傾けているのでした。

夜になっても 暗さをあまり感じなくなった都市での生活の中でさえ、 昼間と夜とでは、 心の様子が ちょっと違うはずです。 昔の生活では 今よりも、 そして幼ない子どもたちは大人に比べ、 もっと 昼と夜の世界を 別のものとして 過でしてきた(いる)のだと思います。

朝と昼の明るい時間と 夜 とが 与えられているのですね。

私たちは 地上を生きるだけでなく、 天空や宇宙を生きる存在でもあるということなのでしょう。

この夏 ずっと 思い巡らしてきた 「朝昼」と 「夜」、 「目覚め」と 「眠り」、 「地上の存在」と 「宇宙の存在」、 「物の世界」と 「形而上の世界」、 「目の前の出来事」と 「ヴィジョンや 夢」 …… 子どもたちのお泊まり会の様子に、 あらためて 静かな夜を大切にしたいと思いました。 お月さまを見上げ、 流れる雲を感じ …… 新しい季節に、 夏の光を浴びて ひと回り大きくなった子どもたちと、 祝福のひとつひとつの時を よろこび合えますように！